

平成31年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 自主・自律・貢献の精神を涵養し、グローバル社会の変化に主体的に対応して、納得して自らの人生を形成できる活力溢れる人材を育成する。
1. 変化する社会を自分の視点で捉え直し、自分らしく人の役に立つ意識を向上し、言葉や表情で様々な人とコミュニケーションできる能力を育成する。
 2. 自己実現を図る進路目標の設定と希望進路の実現必達を支援する。
 3. 学校行事や部活動等の幅広い体験を通して、知・徳・体の調和のとれた人格を陶冶する。

2 中期的目標

1 「授業で勝負」の理念で、「21世紀型学力」の育成に挑戦

授業力向上の取組みを学校組織として継続し、教科指導研究委員会を中心に、教科指導の質的進化を図る

- (1) 池高型アクティブ・ラーニングを推進し、目標と振り返りのある授業を展開
- (2) ICT活用を含め、全教科で一層「わかる喜びが散りばめられた授業」を展開
- (3) 知識・技能定着に加え、発展的学力（思考力・判断力・表現力）や「学び続ける力」の育成

ア 土曜講習や補習・講習等の充実、着実な知識・技能の習得

イ 朝読書、総合的な探究の時間・HR等の活用による言語活動充実、論理的思考力・課題解決力育成

ウ 自学自習力育成（自習習慣の確立）と自習環境の整備

- * 学校教育自己診断において、授業の理解度〔項目：授業はよく理解できる〕を2021年度までに75%をめざす（H30年度：理解度68%）
- * 授業評価アンケートの自学自習項目の肯定率：2021年度までに3.0ポイント（満点4.0）をめざす（H30年度2.77ポイント）

2 「志」の育成と生徒全員の進路保証実現

学ぶための「志」を育成し、目標に対して安易な妥協をさせない進路指導を実施する

- (1) キャリア・ガイダンス充実、高大連携企画（大教大府立高校教職コンソーシアム・大阪大学基礎セミナー）や社会人講話の推進
 - (2) 進路情報の基礎となる全国模試の全学年・全員受験推進
 - (3) 3年間の進路指導計画充実と、豊富な進路指導情報提供
 - (4) 教職員が働き方改革に努め、教職員自らがいきいきと働く姿勢を生徒が感じ、「志」のある進路指導とともに活力溢れる人材育成を行う
- * 3年生現役国公立大学合格者が、前年度より上昇することを目標とする（H30年度合格者：学年の17%/国公立受験者の21.3%）

3 総合的な「人間力」育成

- (1) 3年間の教育プログラムに基づく生徒育成
 - (2) 学習と部活・行事を両立させる生徒育成
 - (3) 朝読書の活性化と工夫による読書習慣定着と個々の読書量の増加、図書館利用の促進
 - (4) 教育相談体制の充実
 - (5) 国際理解教育推進、国際社会を生きる実践的英語力向上
- * 学校教育自己診断「勉強と部活の両立」の肯定率の上昇を目標とし、自己肯定感の上昇につなげる（H30年度53%）

4 本校の安全安心基盤、広報体制充実

- (1) 本校独自の災害対策マニュアルの定期的な見直しと新たな取組みの導入
- (2) 老朽化した学校施設・設備の改善
- (3) 中学生に向けた広報活動推進
- (4) 保護者に向けた情報提供の改善と推進

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和元年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
<p>■昨年度から変更して形式（生徒・保護者・教職員ともに17の質問項目）での実施2年めにあたる。</p> <p>○3学年平均で肯定率が80%をこえる項目</p> <p>【生徒】池田高校に進学して良かった/学校行くのが楽しい/学校の進路指導や進路に関する情報に納得できる/先生は、私達がいじめで困っていることがあれば、真剣に対応してくれる/命や人権の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある/体育祭や文化祭などの学校行事は、進んで参加し、楽しんでいる</p> <p>【保護者】池田高校に子どもを進学させて良かったと思っている/お子様は学校に行くのを楽しみにしている/学校は適切な生徒指導を行っている/学校は、生徒に命を大切にしている心、人権を尊重する意識、社会ルールを守る態度を育てようとしている/保護者として文化祭、体育祭、宿泊行事などの学校行事に満足している/池田高校の授業参観や学校行事に参加したことがある</p> <p>【教職員】生徒の多くが池田高校に進学して良かったと思っていることが、実感できる/学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている/年間の学習指導計画について、各教科でよく話し合っている/教育全般にわたって評価を行い、次年度の計画に生かしている/コンピュータ等のICT機器が、授業などで活用されている/教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教員とも相談することができる/生徒一人ひとりが興味・関心・適性に応じて進路選択できるよう、きめ細かい情報提供を行っている/学校行事が生徒にとって魅力あるものとなるよう、工夫・改善を行っている/体罰やセクシャル・ハラスメントの防止をはじめ、すべての教育活動において人権尊重の姿勢に基づいて生徒指導が行われている。</p>	<p>■第1回（令和元年6月25日開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に指摘された「人権意識の向上」に関する項目の追加を含め、今年度の方針を了承していただいた。 ・昨年度の度重なる自然災害を受け、防災（避難訓練を含む）や危機管理についての意見交換が活発にできた → 一足制の導入促進/メール配信登録者数の増加 ・グループワークや発表形式などにこだわらず、「学びと気づきのある授業」が生徒にとって能動的な授業になる。 <p>■第2回（令和元年11月27日開催） *授業見学も実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校経営計画の進捗状況について校長作成資料（A4版4枚）を基に説明し、協議をおこなった → 昨年度同様、わかり易い資料と好評であった。 ・授業見学ではグループ学習がうまく取り入れられているとの評価をいただき、今後の取組みとして、グループ学習のスキルが高い小学校教員との連携が提案された ・池高ラボの稼働率がほぼ100%であること5日間の英語集中プログラムによる自己肯定感の大幅な向上が見受けられること、大阪教育大学との学校インターンシップを取り入れること、については特に意見交換が深まった。 ・令和2年度の採択済み教科書を閲覧してもらい、確認・了承をいただいた <p>■第3回（令和2年2月25日開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H31年度学校評価（案）ならびにR2年度経営計画（案）ともに、学校教育自己診断結果等を検証しながら了承していただいた。 ・池高型アクティブ・ラーニングの推進を次のステップへと進めた記載「池高型アクティブ・ラーニングを継承し、「主体的、対話的で深い学び」に繋がる《本時の目標と振り返りのある授業》を展開、に期待が寄せられた。 ・評価指標を肯定率のアップとするのは仕方がないことかもしれないが、人は挫折から学ぶことが多く、特に高校生にはそのような経験をしてほしいと願っている者からすると、うまく反映されないものか、と残念な気持ちになる。

- 1) 肯定率の上昇がある【生徒】授業はよく理解できる(68%→76%) 教え方に様々な工夫をしている先生が多い(64%→71%) 学校生活に関する先生の指導に納得できる(66%→71%) 勉強と部活動の両立ができて(53%→61%) 毎日の自主学習時間2時間以上(40%→44%)
 ※授業(学習)に関する項目に関する肯定率の上昇は、高校生活の根幹が充実しつつあると判断したい
- 2) 肯定率が下降した【保護者】学校は、進路情報の提供を含め、適切な進路指導を行っている(83%→75%)
 ※教職員も同様の項目の肯定率が84%→81%と減少した。入試制度の変更等、タイムリーな情報提供に努めたが役に立ったと思える結果にならなかった現状を反映している
- 3) 肯定率が下降し続けている【保護者】学校の施設・設備は、学習環境の面でほぼ満足できる(45%→39%→32%) *自由記述の意見のほとんどが学習環境に関するものであった

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
二十一世紀型学力育成に挑戦	(1) 池高型アクティブ・ラーニング推進	(1) アクティブ・ラーニング推進 ① 教科指導研究委員会を中心とした授業改善の取組み推進(本時の目標と振り返りの実践と定着及び校内研修等の活性化) ② ディベート取組み推進 ③ 生徒の授業参画意識を促進する指導の工夫・改善	① 授業アンケートの「興味・関心」「理解度」前年度ポイントを上昇(前年度 各 3.04, 3.06P) ② ディベート取組みの継続 ③ 学校教育自己診断(生徒)の「自分の考えをまとめたり、発表することがよくある」の肯定率 60%以上(前年度 51%)	① 授業アンケートのすべての項目で上昇した(◎) 「興味・関心」3.04→3.06 「理解度」3.06→3.11 ② 前年度を踏襲できた(○) ③ 同項目 51%→63%(○) 他にも授業(学習)に関する項目の肯定率に上昇がみられた
	(2) ICT活用と「わかる喜びが散りばめられた授業」の展開	(2) ICT活用と「わかる喜びが散りばめられた授業」の展開 ① ICT利用教員数増加、そのためのICT環境の整備改善。教材・情報共有化により教員の業務効率化を図る。 ② 教科毎及び学校全体の公開授業実施 ③ 教員間の互見授業推進 ④ 授業評価に課題がある教員は授業改善シート等を活用し改善注力。授業全般に生徒理解度を上げる。	① ICT活用教員割合：前年度より上昇(前年度：63%) ② 公開授業週間を年間2回以上設定 ③ 授業互見回数一人平均2回以上 ④ 授業評価「知識・技能が身についた」3P以上の教員比率の上昇(前年度 73%) ・学校教育自己診断(生徒)「授業はよく理解できる」肯定率の上昇(前年度 68%) 「教え方に工夫をしている先生が多い」肯定率の上昇(前年度 64%)	① 機器が古くなっていたり、黒板への投影状況が良くない等、活用しにくい現状の影響あり 下降 63%→60%(△) ②③ 前年度を踏襲して実施(○) ④ 「知識・技能が身についた」3P以上の教員の比率 減少 73%→70%(△) ・学校教育自己診断「授業はよく理解できる」 上昇 68%→76%(○) 「教え方に工夫をしている先生が多い」 上昇 64%→71%(○)
	(3) 知識・技能の定着、発展的学力や学び続ける力の育成 ア 土曜講習や課外補習等の実践 イ 言語活動充実、論理的思考力・課題解決力育成 ウ 自学自習力育成と自習環境の整備	(3) 知識・技能定着、発展的学力・学び続ける力の育成 ア 土曜講習等の実践 ① 土曜講習・課外講習・補習の内容精選、年間を通じた計画的補習実施 イ 言語活動充実、論理的思考力・課題解決力育成 ① スピーチコンテスト、ディベート、エッセイ作成等、生徒自身によるアウトプットの機会を捻出 ウ 自学自習力育成と自習環境の整備 ① 二兎追え週間やチューター制度推進等、生徒の自習機会増加 自習室は平日夜間(放課後～18:30) ② 新入生対象(勉強方法)オリエンテーション実施。自学自習の方法を指導ならびに予習意識の向上 ③ 池高ラボの整備推進、活用率の上昇 ④ 学習合宿(自学自習合宿)実施	ア 土曜講習等の実践 ① 土曜講習出席者目標：2年・3年各300名以上 イ 言語活動充実、論理的思考力・課題解決力育成 ① 生徒による自己表現の取組機会を年間2回以上設定する。 ウ 自学自習力育成と自習環境の整備 ① 放課後の自習生徒数 ② 授業アンケート：自学自習P上昇(前年度 2.77p) ③ 自主学習1日2時間以上の生徒数比率 45%以上(前年度 40%/一昨年度 44%) 池高ラボ活用状況調査の実施 ④ 自学自習合宿の実施：参加者20名以上(前年度申込者4名で実施できず)	ア ① 各学年の登録者数は8割以上であったが、実施体制の変更による講座数の減少等で出席者の目標には到達していない(△) イ ① 英語スピーチコンテストなど前年度を踏襲し実施した(○) ウ ① 自習場所に指定した「池高ラボ」の稼働率ほぼ100%により自習生徒数は増加といえる(○) ② 生徒取組1(自学自習)P 上昇 2.77→2.83(○) ③ 45%以上には届かなかったが、44%に回復をした 池高ラボ活用状況は、リピータとしての生徒が多い傾向であるが、稼働率はほぼ100%(○) ④ 自学自習合宿を「英語発信力養成講座(宿泊ナシ・2日間)」とし、初の試みとして13名の参加で実施予定が、新型コロナウイルスの影響で中止となった
「志」の育成と全員の希望進路実現	(1) キャリアガイダンス充実	(1) キャリアガイダンス充実 ① 大学見学会、学部学科説明会、教育実習生懇談会等実 ② 大教大府立高校教職コンソーシアム活用 ③ 大阪大学基礎セミナー受講促進	① 社会人講話の充実 ② 大教大「教師の学び舎」への教員を派遣を継続(前年度2名) ③ 大阪大学基礎セミナー受講(生徒)を継続(前年度1名)	① 様々な連携で充実できた(○) ② 今年度、教員派遣はできなかった(△)。一方、キャンパスガイドに過去最高の9名の生徒が参加した(○) ③ 基礎セミナーそのものが廃止となってしまった
	(2) 全国模試の全学年・全員受験推進	(2) 全国模試の全学年・全員受験推進 ① 学力指標としての全国模試等の、全学年全員受験を推進する。	① 各学年で実施予定の全国模試受験において生徒の受験率100%を継続	① 受験率100%を継続中(○)

府立池田高等学校

	(3) 進路指導充実	(3) 進路指導充実 ① 新入試も見据えた計画的な進路情報提供 ② 3年生向け特別講習の充実等を背景とする進路実績向上	① 学校教育自己診断(生徒)「学校の進路指導や進路に関する情報に納得できる」の肯定率:85%以上(前年度83%) ② 現役国公立合格者:前年度比率より上昇させる(前年度:学年の17%/国公立受験者の21.3%)	①肯定率は84%であったが、新入試制度の変更等の影響も否めない(△) ②新入試制度導入前年度ではあったが、前年度比率より上昇した(○) 学年の17% 国公立受験者の36%
総合的な「人間力」育成	(1) 3年間の教育(生徒育成)プログラム継続実施	(1) 3年間の教育(生徒育成)プログラム ① 3年間の時期に応じた育成ポイントを設定、特に自主自律を推進する施策を各分掌・学年で企画する。 ② 3年間のプログラムの中で生活指導の重点ポイント(登校指導期間、挨拶励行指導時期、通学マナー指導期間等)を設定、生活習慣や規律規範を確立させる。 ③ 3年間のプログラムの中で、人権意識の向上とバランスのとれた人権感覚を持つ社会人を育てる機会を与えていく	①「自主・自律・貢献」の生徒育成を図る具体策を打ち出し、運営委員会等で検討を重ねて実践する ②学校教育自己診断(生徒)「学校生活についての先生の指導は納得できる」の肯定率の上昇(前年度:66%) 学校教育自己診断(教員)「生徒指導において家族や関係機関との連携ができてきている」:肯定率の上昇(前年度81%) ③学校教育自己診断(生徒)「命や人権の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の肯定率の上昇(前年度83%)	①本校の約束事を記した「生徒便覧」の見直しに着手したことを今後の生徒育成に繋げたい ②(生徒) 上昇 66%→71%(○) (教員) 下降 81%→78%(△) ③(生徒) 上昇 83%→89%(○)
	(2) 学習と部活・行事の両立	(2) 学習と部活・行事の両立 ① 自学自習プロジェクトチーム中心に学習・部活両立に向けた取り組み推進 ② 部活の活性化、生徒の活躍推奨	①学校教育自己診断(生徒)「勉強と部活の両立」の肯定率の上昇(前年度53%) ②部活動ガイドラインの導入により生徒自身の部活動に対する考え方、取り組み方の変化を図る	①(生徒) 上昇 53%→61%(○) ②部活動ガイドライン導入の意識づけはできているが、具体的な変化や反映を実感できるには至っていない(△)
	(3) 読書習慣確立	(3) 読書習慣確立 ① 朝読書の活性化と工夫による読書習慣の定着、生徒の読書意欲の高揚 ② 図書室利用の推進と図書館施設見直し	① 月間平均2冊以上読書する生徒比率40%以上(前年度32%) ② 図書室貸出冊数前年比5%以上増加	①学校教育自己診断の該当項目 下降 32%→24%(△) ②(現在調査中)
	(4) 教育相談体制充実	(4) 教育相談体制充実 ① 教育相談体制やスクール・カウンセラー相談日の周知徹底。教育相談委員会を年間10回実施。	①学校教育自己診断(生徒)「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」75%以上(前年度71%)	①(生徒) 上昇 71%→76%(○)
	(5) 国際理解教育推進、実践的英語力向上	(5) 国際理解教育推進、実践的英語力向上 ① 従来のオーストラリア語学研修を継続し、1年生対象に国際理解教養講座を実施 ② 授業は勿論、外国人講師との英会話、ランチミーティング等、英語4技能の能力向上に努める ③ 国際理解教育を推進する取り組みにおいて、異文化理解を含め、バランスのとれた人権感覚を育む	①・語学研修生派遣人数枠最大の30名で実施 ・語学研修実施後の生徒満足度(肯定率):95%以上(前年度100%) ②2年生が受験する英検で、目標設定を上回る結果をめざす ③各取り組み実施後にアンケート等を行い、バランスのとれた人権感覚の醸成を図るように努める	①応募多数で事前選考も必要になる中、派遣人数枠最大で実施満足度(肯定率):100%(○) 今年度より実施したエンパワメントプログラム(5日間英語集中講座)には13名が参加満足度(肯定率):100%(○) ②準2級と2級取得者計101名は、目標設定を上回る結果(○) ③JICAとの連携も含めて、国際理解の観点からの人権感覚の醸成も図れた(○)
学校安全基盤・広報体制の充実	(1) 本校独自の災害対策マニュアル周知徹底	(1) 本校独自の災害対策マニュアル周知徹底 ① 昨年度実際に地震や台風を経験したことを活かしたマニュアルの整備と新たな取り組みの実践	①避難訓練や新たな取り組みに対するアンケートを実施し、今後活かす調査とする	①避難訓練の見直しや新たな取り組みには至らなかったが、来年度から防災をポイントにした上履きに一本化する(○)
	(2) 老朽化した学校施設・設備の改善	(2) 老朽化した学校施設・設備の改善 ① 迅速な施設・設備の改善を実践する ② 古いと汚いの違いを意識して清掃活動や日々の整理整頓に努める校内組織の構築	①事務室との連携強化で対応 ②生徒や保護者の不満も多い老朽化への改善要望を継続し、学校としてできることから実践し形を残す	①迅速な対応ができた(○) ②校内組織の構築には至っていない(△)

府立池田高等学校

<p>(3) 中学生にむけた 広報活動推進</p>	<p>(3) 中学生向け広報活動推進 ① オープンスクールや学校見学会に生徒自治会 関与を増やし、本校生徒による中学生向けPR を推進する。</p>	<p>①オープンスクールと学校見学会来場者 数の維持或いは更新（前年度 1961 名） ②本校生徒が広報活動に一層参加できる 企画立案・推進 ・前年度より始めた自治会による学校 掲示板を活用した季節感が溢れかつ 本校らしさをアピールする情報発信 の継続</p>	<p>①来場者数増加 2072 名 配付資料を刷新 (○) ②季節ごとに自治会執行部が発 信内容を考え、クラスやクラブ にも協力を呼びかけ実践してく れた (◎)</p>
<p>(4) 保護者に向けた 情報提供の改善と推 進</p>	<p>(4) 保護者に向けた情報提供の改善と推進 ① これまでのメール配信について適宜検証しな がらより良いシステムに改善していく</p>	<p>① メール配信登録者数の増加 (H30 年度：70%程度)</p>	<p>①両親ともに登録をするなど登 録者数は各段に増加した (○) 登録割合 (件数)：85%</p>